経営改善計画書（令和2年度～令和4年度）

団体名	一般財団法人用瀬町ふるさと振興事業団

様式2

現状と課題	鳥取自動車道に続いて鳥取西道路も開通し、さらに近年では大江ノ郷が賑わい、人の流れも変化が現れ始めている。そこで旅行会社等に滞在時間も含めていろんな観光コース商品の提案を考えていく必要があります。そして観光客や地域のより多くの人々が利用出来る施設として、食事の充実や憩いの場所、また癒される日本庭園の魅力づくりを図っていく。今後の情報発信のための基盤づくりを行い、後世に残していくためにも、このたび流しびな行事が国の重要無形民俗文化財指定の候補との話がもちあがっており、その指定を目指していくことが良い契機となり、鳥取県や鳥取市各教育委員会と連携して調査研究し、地域住民を巻き込んだ形で「調査報告書」を計画的に仕上げていく。その中で新たな課題や目標が生まれてくることを期待したい。
経営方針 （令和4年度目標）	一般財団として、昨年理事長交替もあり、新体制で伝統文化を伝承すると共に地域の活性化により一層取り組む。1、用瀬の里に伝わる「流しびな行事」の伝統行事を、地域住民と一体となって守り伝える。2、流しびなにまつわる「お雛さま」を中心とした展示品を良好に保つとともに、魅力ある展示に努める。3、流しびなをはじめとする地域の特産品を受託販売、展示し、観光客等来訪者に常時紹介、提供する。4、日本庭園の風情を活用し、観光客はもとより、地域住民の憩いの場として、軽食喫茶を運営し、休憩室を提供する。 鳥取自動車道や西道路から観光客の流れを用瀬に呼び込む魅力づくりを一層強化し、旅行会社などへの提案や情報発信を図る。観る、体験する、食べるなどの機能が備わる総合的な施設として、もう一度再点検し、地元民や県内外の観光客に多く利用していただけるよう全力を尽くす。

視点	4年度目標（期間内の最終目標）	年度	実行計画 取組内容	実行計画 目標値	実績 取組状況	実績 実績値	分析、評価コメント （経営改善効果）	市担当課コメント
経営改革（財務面での長期見通し）	正味財産５百万円以上	２年度	新規利用者も含めた年間利用者の増加を図り、リピーターを増やしながら引き続き収入増に取り組む。	年間入館料（流しひなの館）1,200千円	積極的に観光客の案内説明に取り組んだ。	年間入館料（流しひなの館）343千円	新型コロナウィルスの影響によって、4月から5月の一ヶ月にわたり臨時休館となり、県内でも感染者発生等の情報が出るたびにツアーの中止が相次ぎ、大幅の減少となった。	食事面の充実により、観光物産センターの売り上げが収入の柱となっている。町内の他の賑わい等とも連携し、より安定した収入となるよう努めていただきたい。
				年間収入（観光物産センター13,000千円	法事の食事や弁当、昼食などをより充実させて利用客増に取り組んだ。また、テイクアウトを積極的に進め、何とか売上の減少を少しでもカバー出来るよう努めた。	年間収入（観光物産センター7,548千円	経費節減に取り組み、特に飲食部門では創意工夫し、原価率の向上につとめ、収入増を目指して、実績をあげつつあったが、新型コロナウィルスの影響によって利用者増加に大きな支障となった。	
		３年度	新規利用者も含めた年間利用者の増加を図り、リピーターを増やしながら引き続き収入増に取り組む。	年間入館料（流しひなの館）1,200千円	新型コロナウィルス拡大防止による影響で、県境を越えた往来の自粛が大きく影響し、相次ぐツアーのキャンセルとなった。	年間入館料（流しひなの館）379千円	昨年同様に新型コロナウィルスの影響によって旅行会社等のツアーが大きく減少し、途中感染者の減少による回復の期待があったが、再び感染拡大の情報が出るたびにツアーの中止が相次ぎ、来訪者の減少が続いた。	
				年間収入（観光物産センター13,000千円	観光客向けの食事「雛ものがたり」を2ヶ月毎にメニューを変えて提供し、またその他の食事についても、テイクアウトも積極的に進めながら、お客さまとのコミュニケーションを図り、新しいメニュー「用瀬アルプスカツカレー」を加えるなどし、内容をより充実させて収益増に取り組んだ。	年間収入（観光物産センター8,879千円	新型コロナウィルスの影響が続いており利用者増加に大きな支障となっているが、鳥取県の新型コロナウィルス拡大防止の認証店も受け、国や県の助成金を活用しながら安心安全な施設運営を心がけた。	
		４年度	新規利用者も含めた年間利用者の増加を図り、リピーターを増やしながら引き続き収入増に取り組む。	年間入館料（流しひなの館）1,200千円	新型コロナウィルス拡大防止により、旅行会社のツアーキャンセルや自粛の影響で、入館者は減少となったが、昨年に比べ若干持ち直して来た。	年間入館料（流しひなの館）530千円	昨年同様に新型コロナウィルスの影響によって旅行会社等のツアーが減少したものの、政府の「２類から５類へ」の期待感によって回復の期待があり、、若干ながら来訪者の増加になった。	
				年間収入（観光物産センター13,000千円	観光客向けの食事「雛ものがたり」を2ヶ月毎にメニューを変えて提供し、またその他の食事についても、テイクアウトも積極的に進めながら、お客さまとのコミュニケーションを図り、新しいテイクアウト「ぼんぼりアイスクリン」もメニュー化し、収益増に取り組んだ。	年間収入（観光物産センター12,334千円	旅行会社のツアーも持ち直して来た。	
組織改革（組織見直し、人材育成）	タ流しびなの館・観光物産センターの一層の相互連携を図る	２年度	観光物産センターと流しびなの館が、相互連携を密にして、緊急時はもとより、これまで以上にきめの細かいおもてなしやアテンド(誘導)を行い、各部門の収益を効果的に伸ばす組織体制を構築する。コンプライアンスの遵守。	年間研修時間50時間（朝礼時間を利用）	館予約、食事予約の情報を常に全員が共有することを毎朝確認すると共に、接客態度の改善や食中毒事故の防止を中心に、昨年同様研修した。	年間研修時間50時間（朝礼時間を利用）	特に衛生面での職員の日頃からの心がけ（特に手洗いの徹底）と、接客の姿勢向上へ向けて職員相互で研修につとめた。	物産観光センターの収入の安定は研修の成果によるものと考えており、引き続き流しびなの館との相互連携を図っていただきたい。
		３年度	観光物産センターと流しびなの館が、相互連携を密にして、緊急時はもとより、これまで以上にきめの細かいおもてなしやアテンド(誘導)を行い、各部門の収益を効果的に伸ばす組織体制を構築する。コンプライアンスの遵守。	年間研修時間50時間（朝礼時間を利用）	館予約、食事予約の情報を常に全員が共有することを毎朝礼時に確認すると共に、コロナ禍での感染拡大防止対策の徹底や、接客態度の改善、食中毒事故の防止等を昨年同様に研修した。	年間研修時間50時間（朝礼時間を利用）	食事場所での客席を減らした中で、お客さまが密接とならないように丁寧な説明が求められるので、特に接客態度につき相互研修につとめた。	
		４年度	観光物産センターと流しびなの館が、相互連携を密にして、緊急時はもとより、これまで以上にきめの細かいおもてなしやアテンド(誘導)を行い、各部門の収益を効果的に伸ばす組織体制を構築する。コンプライアンスの遵守。	年間研修時間50時間（朝礼時間を利用）	館予約、食事予約の情報を常に全員が共有することを毎朝礼時に確認すると共に、コロナ禍での感染拡大防止対策の徹底や、接客態度の改善、食中毒事故の防止等を昨年同様に研修した。	年間研修時間50時間（朝礼時間を利用）	接客態度（挨拶、言葉遣い）や、当日の利用状況、コロナ感染状況等の把握について、全員の情報共有を確実に行うと共に、衛生管理の相互研修を実施した。	
公益増進（顧客サービスの向上、社会貢献）	年間施設利用者５万人を維持すると共に、利用促進を図る	２年度	流しびな行事の伝統文化を県内外の観光客に説明強化しつつ、伝統文化の情報発信。	年間実施300件	昨年度と同様に、団体客また小グループ、個人からの説明希望があれば、随時説明を行った。またホームページに加えフェイスブックを活用して、、引き続き用瀬町内のイベントなどについての情報提供や行事の予定・近隣のイベント情報の掲載などの情報発信を行い、利用者の増加を図った。またお客様の声などもとりあげて掲載した。	館内説明案内、年間59件実施	新型コロナウィルスの影響によって、4月から5月の一ヶ月にわたり臨時休館となり、県内でも感染者発生等の情報が出るたびにツアーや企画の中止が相次ぎ、大幅の減少となった。	伝統文化の継承と、団体に対応可能な食事提供施設として、地域のニーズを大切にしつつ、新たな取り組みを取り入れながら利用促進が図られている。
			流しびな製作体験の積極的な情報発信(HPなど)。紙びな作り＆桟俵作りや顔書き体験	製作体験15件	ホームページで製作体験をトップページに配置し、また、製作グループの「ときわ流しびなの会」との連携を深め、利用を増やすよう図った。	製作体験2件、19人、さん俵電話等注文販売15件	新型コロナウィルスの影響によって、4月から5月の一ヶ月にわたり臨時休館となり、県内でも感染者発生等の情報が出るたびにツアーや企画の中止が相次ぎ、大幅の減少となった。	
			施設利用の促進(各種会合の懇親会、パーティー、法事など)、夜間も含めて利用。	年間利用100件	観光物産センターでは、食事のメニューを年度毎に見直し、客のニーズにあわせたメニューに心がけた。日本庭園も年中綺麗に保ち、観光客の鯉の餌やりや、長旅での疲れを癒す事を考えて整備し、少しでも誘客に繋がるように努力した。和室での予約による食事会・懇親会等を積極的に受注した。また、テイクアウトを積極的に進め、何とか売上の減少を少しでもカバー出来るよう努めた。	和室利用年間利用71件	新型コロナウィルスの影響によって、4月から5月の一ヶ月にわたり臨時休館となり、県内でも感染者発生等の情報が出るたびに、ツアーや食事の中止が相次ぎ、大幅の減少となった。	
			流しびな行事の国の重要無形文化財指定に向け、鳥取県の指示による「調査報告書」の作成。	資料等の調査・まとめ	鳥取市文化財課や、用瀬町総合支所及び用瀬地区公民館と連携して、資料収集等実施に向かうこととした。	連絡会議1回	各自により夫々の状況を把握するよう努めた。	
		３年度	流しびな行事の伝統文化を県内外の観光客への説明強化しつつ、伝統文化の情報発信	年間実施300件	昨年度と同様に、団体客また小グループ、個人からの説明希望があれば、随時説明を行った。また、ホームページなどで引き続き用瀬町内のイベントなどについての情報提供や行事の予定・近隣のイベント情報の掲載などの情報発信を行い、利用者の増加を図った。	館内説明案内、年間32件実施	観光バスの運行が減少しており、団体客の立寄りが少ない状況が続いているが、例年のように各方面からの情報提供依頼があった。特に今年度は日本テレビ「ヒルナンデス」やフジテレビ「今夜はナゾトレ」などの番組からも取材や資料提供の依頼があった。	
			流しびな製作体験の積極的な情報発信(HPなど)。紙びな作り＆桟俵作りや顔書き体験	製作体験15件	鳥取県観光連盟やホームページで製作体験をPR。また、製作グループの「ときわ流しびなの会」との連携を深め、利用を増やすよう図った。	製作体験6件、108人、さん俵電話等注文販売13件	感染拡大の情報が出るたびにツアーの中止が相次ぎ、来訪者の減少が続いた。	
			施設利用の促進(各種会合の懇親会、パーティー、法事など)、夜間も含めて利用。	年間利用100件	観光物産センターでは、食事のメニューを年度毎に見直し、客のニーズにあわせたメニューに心がけた。日本庭園も年中綺麗に保ち、観光客の鯉の餌やりや、長旅での疲れを癒す事を考えて整備し、少しでも誘客に繋がるように努力した。和室での予約による食事会・懇親会等を積極的に受注した。また、テイクアウトを積極的に進め、何とか売上の減少を少しでもカバー出来るよう努めた。	和室利用年間利用108件	今年度も感染拡大防止の観点から、夜間の飲酒を伴う利用は控えた。尚、昨今の生活スタイルも変化し、座礼での食事が不評の声が多く上がっていたので、机いすセットでの利用を整え、現在のニーズに対応した。	
			流しびな行事の国の重要無形文化財指定に向け、鳥取県の指示による「調査報告書」の作成。	資料等のまとめ・整理	用瀬町総合支所主体で地元の継承団体を組織し、それに協力する事とした。また流しびな行事当日には、ライブ配信と記録保存のため収録を行った。、		流しびなとひな、ひな祭りの文化の継承に努めた。	
		４年度	流しびな行事の伝統文化を県内外の観光客に説明強化しつつ、伝統文化の情報発信。	年間実施300件	昨年度と同様に、団体客また小グループ、個人からの説明希望があれば、随時説明を行った。また、ホームページなどで引き続き用瀬町内のイベントなどについての情報提供や行事の予定・近隣のイベント情報の掲載などの情報発信を行い、利用者の増加を図った。	館内説明案内、年間26件実施	観光客のバスツアーが低迷しており、説明案内の機会が少なかった。尚、今年度は日本テレビ朝の情報番組「ZIP」から「流しびな」のビデオ出演取材を受けた。	
			流しびな製作体験の積極的な情報発信(HPなど)。紙びな作り＆桟俵作りや顔書き体験	製作体験15件	鳥取県観光連盟やホームページで製作体験をPR。製作グループの「ときわ流しびなの会」との連携を深め、利用を増やすよう図った。また、今年から「恋びな」と名付けた、毛糸で作る流しびなのワークショップを立ち上げ、利用促進を図った。	製作体験11件、185人、さん俵電話等注文販売14件	昨年同様に新型コロナウィルスの影響によって観光客が減少したものの、昨年より若干ながら利用者の増加となった。	
			施設利用の促進(各種会合の懇親会、パーティー、法事など)、夜間も含めて利用。	年間利用100件	食事のメニューを年度毎に見直し、客のニーズにあわせたメニューに心がけた。日本庭園も年中綺麗に保ち、観光客の鯉の餌やりや、長旅での疲れを癒す事を考えて整備し、少しでも誘客に繋がるように努力した。和室での予約による食事会等を積極的に受注した。また、テイクアウトを積極的に進め、昨年以上に売上が増加するよう努めた。	和室利用年間利用136件	テーブルと椅子での利用が好評で、特に高齢者から「ありがたい」との評判を受けた。尚、今年度も感染拡大防止の観点から、夜間の飲酒を伴う利用は控えた。	
			流しびな行事の国の重要無形文化財指定に向け、鳥取県の指示による「調査報告書」の作成。	資料等の印刷と指定の準備	地元の継承団体と協力し、流しびな行事の継承に努めた。		コロナ禍で観光客は誘致しなかった。地元の伝統行事継承に努めた。	